

# 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3393500016		
法人名	有限会社 桜花		
事業所名	グループホーム さくらそう B棟		
所在地	岡山県吉田郡鏡野町小座424 - 1		
自己評価作成日	平成22年9月28日	評価結果市町村受理日	

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://kaigo-kouhyou.pref.okayama.jp/kaigosip/informatiionPublic.do?JCD=3393500016&amp;SCD=320">http://kaigo-kouhyou.pref.okayama.jp/kaigosip/informatiionPublic.do?JCD=3393500016&amp;SCD=320</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ライフサポート		
所在地	岡山市北区南方2丁目13-1 県総合福祉・ボランティア・NPO・会館		
訪問調査日	平成22年10月4日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>・職員が利用者一人ひとりの生活状況を把握し、一日の生活の流れや食事の嗜好、生活習慣等へ支援していく事。</p> <p>・ターミナルケアを実施、ホームでの看取りを家族、医療関係者と十分な話し合いをして、受け入れる。</p>
---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

Empty space for external evaluation comments
--

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに 印	項目		取り組みの成果 該当するものに 印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・職員会議を通じて、理念について話す機会を設けている		
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・地域行事へ積極的に参加し、地域の方々と交流する場を設けてはいる		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・施設周辺を散歩し、地域の人に会えば挨拶や会話を交わす  ・問い合わせ等あれば常時対応		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・二ヶ月に一回開催し施設の取り組み状況等の報告をし、要望について改善できる様に努めている		
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	・入退所状況、事故発生報告を都度行い、入所者を支援する中で疑問に思う事等を相談している。		
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・日々の生活の中で身体拘束につながるような対応をスタッフがした場合、その場で説明し、その後全スタッフにも伝え、皆で考えて身体拘束をしないケアをするよう取り組んでいる		
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・冊子を参考にしているが、年に一回程度しかできておらず今後は学ぶ機会を増やしていきたい		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・スタッフに対し権利擁護についての勉強をする機会をを持っていないので、勉強する機会を設ける		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・入所時や契約の際に契約書全ての説明を行い、納得の上で署名・押印をいただいている		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・利用者からの意見が出た場合、スタッフで話し合い、居心地がいい生活が出来るよう努めている ・家族の方が面会に来られた際はスタッフが利用者の様子を説明し、その中で家族の思いを聞き、活かせるようスタッフで話し合う場を設けている		
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・月三回会議を持ちスタッフの思いを聞く場を設け、スタッフ全員でどのようにしていくか話している ・代表者は年一回スタッフと面談している		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・有資格者や役職者は給料が優遇されるので無資格者にも積極的に資格等の取得を促している		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・グループホーム協会や町役場等からくる研修案内等から個々に合った研修に参加してもらい、ホーム内で報告や実施等をしてもらっている		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・見学に行く ・研修会に参加し、交流を持つ		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・初人居時の心理や我が家に住めない状況の不安、家族との絆、頑張ってきたことの敬意を示し、安心して生活できるように本人の気持ちを引き出していけるよう努めている		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・初回の家族の出会いを大切にして、家族が介護の苦労を共感し、心の葛藤を理解して家族の意向に沿い、信頼関係に努めている		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・心身の認知症状が環境によって一時変化しないかと言う不安を解消していく支援に努め、安心して生活できるサービス対応に努めている		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・常に本人の家として共に仲間としてやすらいで生活できる「自分の家みんなの家」として職員も接する大切さを試みかけ実行している		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・家族と本人の絆を大切に考えて、快い場面を提供できるようにしている 又、共に悩みを話し合い、プラス面をお伝えして喜びを分かち合うように努めている		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・日常生活の中に実行することが難しいこともあるが面会にはいつでも会えるようにしている  ・馴染みの場所の外出は必要時やニーズに応じて実行している		
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・一人ひとりの孤立を防ぐため、常に平等に声掛けや対応を聞き「みんな家族である」思いを持ち、具体的に工夫して実行している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・ターミナル、入院で契約が切れても支援に満足して頂いたかどうかを大切にしている為、その後の家族のつながりを保つように努めている		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・一人ひとりの個性を尊重して本人らしく生活してもらうことに力を入れている ・困難な課題がある時、本人のことを中心に配慮して検討している		
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・生活歴、地域のつながりを職員に理解してもらい、入居した経過も支援する上で把握することが必要なため、より良いサービスのため実行している		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・一日一日が生き生き活気のある笑顔が見える日常になるよう心身の健康状態を観察して体調の安定に努めている		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・家族に日常の暮らしや支援内容を見直して家族、スタッフと話し合い、関係者の意見やアイデアを介護計画に取り入れている		
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・個別記録が実践に活かされるように工夫をしているが、気づきや情報が一層明確になることが望ましい ・引継ぎの実用性を活かしている		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・本人、家族のニーズが高い場合も積極的に話し合い、出来る限り受け入れていく姿勢をとっている ・職員のチームワークで可能になっている事がある		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		<p>地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者と共に地域資源を活用する場に出掛ける事はお祭りや運動会への参加やスーパーへの買物程度である</li> </ul>		
30	(11)	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・二週間に一回かかりつけ医の往診と状態に変化があった場合には連絡して指示を受けている。</li> </ul>		
31		<p>看護職との協働</p> <p>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者からの訴え時、スタッフが気付いた変化について看護師に報告、相談し確認してもらう体制を取っている</li> </ul>		
32		<p>入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者が入院した際は二日に一回は面会に行き状態把握をし、退院に向けて病院のCWに調節してもらい、家族を交えて話し合いをする場を設けている</li> </ul>		
33	(12)	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ターミナルに向けて施設で出来る事を家族に説明し、納得の上でターミナルを迎えられるよう支援している</li> <li>・スタッフにターミナルケアについて勉強会をする</li> </ul>		
34		<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・急変時の対応の仕方は定期的に行えていないので今後する必要がある</li> </ul>		
35	(13)	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期的に訓練をしているが新人スタッフが入った場合できていない</li> <li>・地域の消防団の協力を得て訓練実施の調整中である</li> </ul>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・家に居た時と同じような生活が送れるよう生活リズムを整え環境を作る		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・コミュニケーションをとりつつ、本人の意思を確認する ・意志表示できない人でも表情や行動によるサインを見つけていく		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・生活にメリハリをつけつつも、時間にとらわれる事なくその時間に本人が「したい」と思う事を優先している(当日のドライブ・買物は本人と相談し決定)		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・毎朝鏡を見てもらい自分を意識して頂く事が第一 ・自力での身だしなみやお洒落を促す ・ひげ剃りは毎朝、散髪は定期的に、希望者は化粧も行う		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	・次に食べるメニューを教えて、出来上がりを楽しみにしてもらう ・好き嫌いを把握し、代替えメニューにて対応をする ・手伝いが出来る人は職員と野菜の皮を剥いたり切ったりしている		
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・一人一人に合わせた食事量(食器を使い)で水分も夜間取れるように居室にお茶を用意している ・嚥下の関係で、お茶をゼリーにして飲んでもらっている		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・起床後、毎食後、就寝前の口腔ケアは(本人の拒否がある場合を除き)きちんとできている ・毎回使う歯ブラシやコップも定期的に消毒、交換をしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを全スタッフで共有し、トイレやポータブルトイレで排泄出来るよう支援している		
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘傾向にある利用者に対し、毎朝はちみつ入りの牛乳を飲用して頂き、なるべく自然排便できるように支援している		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴前のバイタルチェック、一番風呂に入りたい利用者には、日替わりで一番に入って頂けるよう説明 入浴時に音楽をかける 入浴前に入って良いか確認する		
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室温の確認 本人のペースに合わせて起床、就寝、昼寝等をしていただけるよう声かけしている		
47		服薬支援 一人ひとり使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋ファイルに一人ひとり綴じている 服薬チェック表にて服薬確認		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活の中で洗濯や食事作り等一人ひとりにして頂ける事をスタッフと一緒にやる		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	利用者一人ひとりが楽しめるように担当スタッフを決め、2～3人ずつ目的の違う場所に出掛ける様支援している(外食・買い物) 本人希望時、家族の協力の下自宅にて過ごす(スタッフが付き添う場合もある)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・現在は2名の方が本人の希望に応じてお金が使えている。残りの方は家族とその都度相談し、対応をしている		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・本人の希望に応じ時間を検討検討し、本人又は職員が家族に電話をかける  ・手紙等は本人に手渡しをする		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・その人に合った席を用意し、グループの輪の中に入れて頂く ・衛生面に配慮し、消毒の徹底、床のゴミをこまめに掃きとる ・季節を感じてもらう為に壁飾りを工夫する		
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・特に居場所は決まっておらず、本人が思うままの場所を提供している(トラブルが起きないように目配りをする)		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・自分が使い慣れた物や生活必需品を身の回りに置いてもらう事や、面会時に本人と共に撮った家族の写真を貼ることで生活に安心感や落ち着きがみられる		
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・居室内に関しては、月毎に担当スタッフが行き、本人が応じれば二人で掃除やタンスの整理、片付けを行い、安全な環境を整える		